

<対策のポイント>

国際的にみて遜色のない水産資源の評価・管理方法の導入により水産資源を回復するため、調査船調査などの資源調査を抜本的に拡充して情報収集体制を強化することにより、**国際水準の資源評価を実施**するとともに、**資源評価対象魚種の拡大を推進**します。

<政策目標>

資源評価対象魚種の拡大（50種 [平成30年度] →200種程度 [平成35年度まで]）

<事業の内容>

1. 調査船調査（加入量や親魚量の推定精度の向上）

- 資源の産卵場や分布域において、トロール網や魚群探知機等による調査船調査を行い、**加入量（新たに漁獲対象となる幼魚の量）や親魚量を推定**します。

2. 市場調査（生物情報収集体制の強化）

- **水揚げが行われている魚市場において、対象となる魚種を購入し、研究室において測定・解剖**することにより、年齢や成熟状態等の**生物学的情報を収集**します。

3. 海洋環境要因の把握

- **水産資源の分布・回遊・生残等に影響を及ぼす海洋環境を把握**するため、調査船や観測ブイ等を利用し、**水温、塩分、海流等の情報を収集**します。

4. 資源評価手法の高度化等

- **各資源に適した先端技術を導入し、資源評価の精度向上**を図ります。また、海の中の様々な不確実性の影響を把握するため、コンピュータ上の仮想の資源において適切な管理方策を模索・検証する**管理戦略評価（MSE）システムを開発**します。

<事業イメージ>

---<主な目標>-----

- 最大持続生産量（MSY）の算定に必要な加入量や親魚量を精度高く推定
- 資源評価対象魚種を国際的に遜色のないレベルへ拡大
- 諸外国との協議の場で資源評価・資源管理を主導

MSYベースの資源評価

- ①データの収集
- ・調査船等による調査（加入量調査、資源量推定調査、海洋調査等）
 - ・水揚げ情報や漁獲物の収集（市場調査）
 - ・採集した試料の分析（年齢、成長、成熟の把握等）



- ②資源解析
- ・収集したデータを解析し、資源量指標値等の推移を把握
 - ・資源解析モデルが適用可能な資源等については資源量等を推定
 - ・加入量と親魚量の関係等からMSYを算定

国際水産資源

- ③資源状態の判断
- ・資源がMSYを達成する水準よりも上か下かを判断
 - ・資源に対する漁獲圧力が、MSYを達成する水準よりも上か下かを判断

関係国が収集したデータを基に共同で資源評価を実施し、資源管理措置を策定

- ④生物学的許容漁獲量（ABC）の算定等
- ・資源状態や漁獲管理規則等に応じたABCの算定
 - ・不確実性に頑健かつ透明性の高い管理戦略策定のためMSEを導入

水産資源の維持・回復のため、

- MSYをベースとした資源評価・管理を実施
- 漁獲可能量（TAC）制度の対象魚種拡大や個別割当（IQ）の導入を実施
- 国際水産資源の持続的利用と我が国漁業の操業の確保を推進



<事業の流れ>

